

河川環境整備手法の一考察

広島市建設局土木部河川港湾課 ○正会員 小川 康彦
大下 英二
梶谷 直毅

1. まえがき

広島市建設局河川港湾課における業務は、普通河川改修事業、河川環境整備事業、急傾斜地崩壊対策事業、広島港さん橋補修事業等であるが、この中で、近年注目されている河川環境整備事業について、整備手法ならびに地元参加のクリーン作戦について述べてみたい。

2. 広島市の河川流域

広島市は太田川、八幡川、瀬野川の3つの流域から構成され、太田川の下流に形成された三角州と、周囲を中国山地から連なる山地及び丘陵地で形成されている。山地・丘陵地は市域の85%をしめ、山腹斜面は急峻で、標高600m以上の山岳が点在する一方、山頂部分はなだらかである。

また、太田川、三篠川、安川、八幡川、瀬野川などの流域に沿って低地が形成されており、太田川下流部は、太田川放水水路、天満川、旧太田川（本川）、元安川、京橋川及び猿猴川の6本の河川に分派している。（図-1）

3. 広島市の河川環境整備事業

(1) 自然環境整備事業

本市は、「自然を守り、生かす町づくり」を都市づくりの柱とし、自然環境の持つ多様な機能や、地域と河川の結びつきを強めることを目的とし、良好な自然環境の創出や生態系の保全に努めた河川改修を行っている。

以下にその事例を紹介する。（表-1）

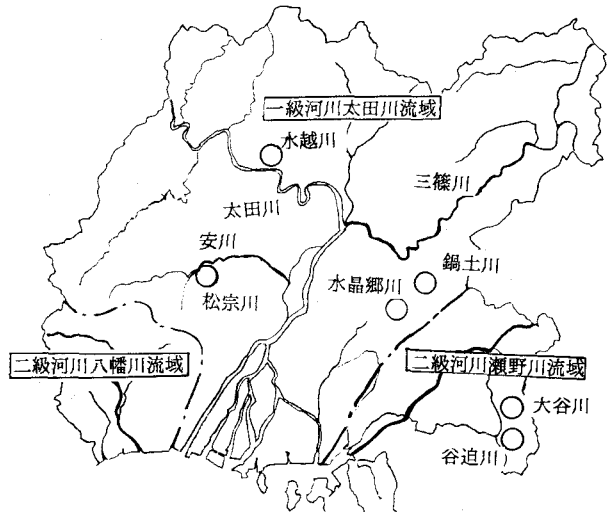


図-1 広島市の河川流域図

表-1 広島市の自然環境河川整備事業

護岸形態	河川名（区名）	概要
魚巢・ホタル護岸	松宗川（安佐南区） 水越川（安佐北区） 大谷川（安芸区）	魚巢ブロック及びホタルブロック護岸により、魚類及びホタルの保全を目的とした河川
ホタル護岸	谷迫川（安芸区）	ホタルブロック護岸により、ホタルやそのエサとなるカワニナの生育に適した環境をつくることを目的とした河川
化粧ブロック護岸	鍋土川（安佐北区）	景観保全のため、コンクリート護岸に化粧型枠を使用し、また自然石張りの河床にするなど、地域の景観と調和を図ることを目的とした河川
自然石護岸	水晶郷川（東区）	現場発生の自然石を使用した護岸により、自然のままの渓流をイメージさせる改修を行い景観の保全を目的とした河川

(2) 瀬野川河川環境整備事業

二級河川瀬野川は、広島市の東部に位置し、東広島市・海田町・広島市を流れる延長22.5kmの河川で、下流部の海田町や広島市において、河川及び河川沿線地域の環境景観の整備、水辺の積極的利用の促進を目的とした高水敷の整備を平成2年度から行っている。

その手法としては、自然石を利用した護岸や水際植物の新植等を採用した。(図-2)

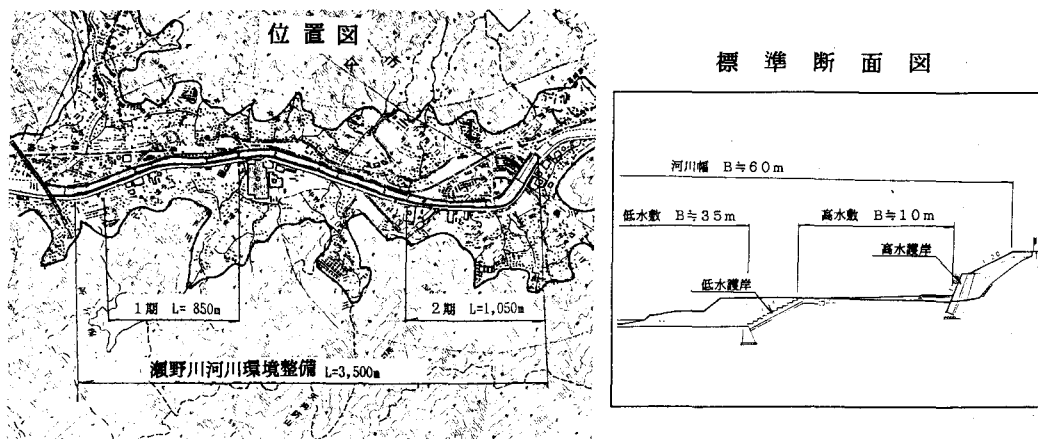


図-2 瀬野川河川環境整備事業の位置図及び標準断面図

4. 市民参加による河川環境整備

広島市において実施されている地域環境美化活動のうち、河川のクリーン作戦としては、主なものとして太田川(一級河川)・安川(一級河川)・八幡川(二級河川)及び瀬野川(二級河川)において地域の公衆衛生推進協議会をはじめ、社会福祉協議会・町内会・自治会等の各団体の参加を得て実施されております。

そのうちでも、「太田川のクリーンキャンペーン」(7月)は、流域の市町村も含め、一万人以上が参加する一大イベントであり、「八幡川クリーン作戦」は、清掃後において、「リバーマラソン」(7月)を開催、瀬野川においても「瀬野川クリーンキャンペーン」(9月)を実施するなど、地域の連携を図りながら河川を含めた地域環境の向上、保全に対する啓発活動として、展開している。

5. 結び

広島市は太田川流域を中心に、治水、利水ならびに環境整備が進められてきたが、近年、中小河川における環境整備についても市民の期待が高まってきている。

環境整備は、人工的な景観整備から、自然環境を復元する多自然型整備まで、幅広い整備手法が提案されているが、完成後の維持管理が大切であるため、各河川ごとに地理・自然条件、地元意識を総合的に検討して、選択する必要がある。

そのため、市民参加によるノーポイ運動などの河川クリーン作戦が今後ますます重要となり、地域と一体となった河川環境整備を推進する必要がある。